1995(平成7)年の日本の天候の特徴

八木正允・垣花和夫・吉田慈道

(気象庁観測部産業気象課)

Weather of Japan in 1995

Shoin YAGI, Kazuo KAKIHANA and Tadamichi YOSHIDA

(Japan Meteorological Agency, Otemachi, Tokyo, 100 Japan)

1. 天候経過の概要と特徴

1995年の日本の天候の特徴は、次のとおりである。

①暖冬、②1994年12月～1995年2月にかけて、太平洋側で少雨雪、北・東日本で多照、③3月～5月にかけて、多雨・寡照、北・東日本では高温、④梅雨の時期、低温・多雨・寡照、⑤8月、東日本の太平洋側と西日本を中心に記録的な高温(図1、表1)、⑥5月中旬～10月上旬、東北地方の日本海側を中心に寡照(図2)、⑦梅雨明け後、東・西日本の大部分で少雨(図3)・多照、⑧台風の発生数が少ない。

ここで北日本とは北海道・東北地方を、東日本とは関東・中部地方を、西日本とは近畿・中国・四国・九州地

方を、南西諸島とは奄美・沖縄地方をいう。

図4は年間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)図である。平均気温は北日本、東日本では平年を上回り、特に北海道地方では1℃以上高いところがあった。降水量は東北から東日本にかけての太平洋側、西日本の大部分と南西諸島で平年より少なかった。日照時間は東日本の太平洋側と西日本(日本海側の一部を除く)で平年より多かった。

以下に各季節の特徴を述べる。気温変動のうち1季節より短いものについては、図1の地域別日平均気温平年偏差の5日移動平均経過図を随時参照してほしい。また、気温、降水量、日照時間の月単位での異常の程度については、表1の月平均気温、月降水量、月日照時間の極値

図1 1995年の地域別日平均気温平年偏差の5日移動平均経過図

陰影部分は平年値より低い部分。

表1 1995年中に月平均気温、月降水量、月日照時間が統計開始以来の記録を更新した地域とその官署数
ただし、統計年数20年以上の官署(気温146, 降水量147, 日照時間148官署)に限る。

	高 温	低 温	多 雨	少 雨	多 照	寡 照
1月			北海道・西日本 3		関東・九州 2	近畿の一部 1
2月				北日本・西日本 7	北日本・関東甲信・中国・九州 8	
3月			近畿の一部 1			東北 2
4月	東北の一部 1		九州南部の一部 1			
5月	北海道 4		東日本・西日本 17			北日本 2
6月		近畿の一部 1	伊豆諸島・九州南部 2	西日本 2		東北・関東・近畿 6
7月			北陸の一部 1	伊豆諸島・南西諸島 2		
8月	東日本・西日本 52		北日本・北陸 4	東日本・西日本 17	東日本・西日本 20	東北 2
9月	南西諸島の一部 1			北陸・西日本 7		
10月	北日本・北陸・南西諸島 14					
11月			北海道の一部 1	東北・九州南部 2	東北・東日本・西日本 24	
12月			北海道の一部 1	北日本・関東甲信・西日本 21	北日本・東日本・近畿 22

図2 1995年5月中旬から10月上旬までの
5か月間の日照時間の年平均比(%)
陰影部分は平年値以下の領域。

図3 1995年8月から12月までの
5か月間の降水量階級区分図
ここで、かなり多い、やや多い、並、やや少ない、かなり少ないとは、ある地点、ある時期の毎年の統計値を多い順に並べて、1:2:4:2:1の割合に区分けしたものをいう。

図4 1995年の年間の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

陰影部分は平年値以下の領域(以下図8まで同じ)

の更新状況を参照してほしい。

2. 季節の特徴

2.1 冬(1994年12月～1995年2月)：暖冬

図5は冬期間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)である。平均気温は全国的に平年を上回り、北日本では連続7年、その他の地域では連続9年暖冬となった。太平洋側は少雨雪、北日本・西日本では多照となった。

12月：中旬後半に低温の時期があったが、その他の期間は気温が平年を上回る日が多かった。北日本では時々冬型の気圧配置となり、特に中旬後半は日本海側で雪の日が続いた。

1月：寒暖の変動が大きかった。上旬と下旬前半は寒気の南下はなく暖かい日が多かった。中旬と月末には強い寒気の南下に伴い冬型の気圧配置となり、ほぼ全国的に強い低温となった。また、日本海側ではまとまった降雪があった。

2月：月初めには冬型の気圧配置となっておりほぼ全国的

に低温となった。その後は冬型の気圧配置が現れても長続きせず、気温が平年を上回る日が多かった。

2.2 春(3月～5月)：多雨・寡照

図6は春期間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)図である。低気圧や前線の影響を受けやすく全国的に多雨・寡照、北日本・東日本の気温は全般に高かった。

3月：上旬は東日本の太平洋側を除き、移動性高気圧に覆われ晴れる日が多かった。中旬以降は南海上や日本海の低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。

4月：初めは移動性高気圧に覆われて晴れる日が多く、中頃からは天気は短い周期で変化した。下旬は本州南岸を通る低気圧や前線の影響で東・西日本では曇りや雨の日が多かった。

5月：前線が停滞する時期があり、また低気圧の影響も受けやすかったため、ほぼ全国的に曇りや雨の日が多かった。降水量は、南西諸島と九州南部を除いて全国的に多く、東・西日本の各地で中旬に大雨となり、近畿地方を中心に和歌山(平年比332%)、徳島(329%)等17地

図5 1995年冬期間(1994年12月～1995年2月)の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

点で月降水量の多い記録を更新した(表1)。

2.3 夏(6月～8月)：梅雨明け後の東・西日本の高温、北日本中心の多雨・寡照

図7は夏期間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)図である。また、表2に1995年の梅雨の状況を示す。梅雨の時期の前半は全国的に曇りの日が多く低温、後半は梅雨前線の活動が活発となり各地で大雨となった。梅雨明け後は、東日本の太平洋側と西日本を中心に記録的な高温となった。一方、北日本では梅雨明け後も曇りや雨の日が多かった。

6月：上空に寒気を伴った低気圧や北偏した高気圧が現れることが多く、全国的に曇りや雨の日が多く、低温・寡照となった。下旬は顕著なオホーツク海高気圧が現れ、北日本を中心に強い低温となった。梅雨前線は本州の南岸を離れて停滞することが多く、九州南部、関東・東北地方の一部を除いて少雨の所が多かった。全国的に梅雨入りは平年並ないし早かった。

7月：上・中旬は梅雨前線の活動が活発で東・西日本では広い範囲で大雨となり山崩れ・崖崩れや洪水が発生した。特に11～12日にかけて長野県や新潟県では大雨

のため田畑が冠水し、農作物に大きな被害がでた。下旬の初めは台風や梅雨前線の影響で全国的に雨となった。下旬の中頃からは全国的に太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続いた。梅雨明けは九州、四国、東北北部は早く、その他の地方では平年並ないし遅かった。

8月：東・西日本と南西諸島では、ほぼ月を通じて太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が続いた。関東地方から九州地方までの太平洋側を中心に記録的な高温となり、52地点で月平均気温の高い方からの極値を更新した(表1)。特に岐阜では30.3℃、名古屋では30.1℃と月平均気温が平年よりも3.0℃も高かった。一方、低気圧や前線の影響を受けた北日本は、曇りや雨の日が多く多雨・寡照となった。特に秋田、岩手、新潟の3県では水稻などの農作物に被害がでた。

2.4 秋(9月～11月)：少雨・多照

図8は秋期間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)図を示す。

10月は全国的に高温、11月は北日本を除いて低温となるなど、東・西日本では気温の変動が大きかった(図1参照)。秋雨前線の活動が不活発で、移動性高気圧に

図6 1995年春期間(3月～5月)の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

覆われることが多く、時々冬型の気圧配置となったため、東北から九州地方の太平洋側では晴れた日が多かった。

9月：全国的に低気圧や秋雨前線の活動は不活発で少雨となった。北・東日本の太平洋側では晴れた日が平年に比べて多く、東北地方以南の日本海側では曇りや雨の日が多かった。

10月：日本海を進む低気圧に向かって暖気が入りやすかったことなどから、全国的に高温となり、札幌、秋田などの北日本と久米島などの南西諸島の14地点で高温の記録を更新した。東・西日本は移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、少雨・多照となった。

11月：時々冬型の気圧配置となり、太平洋側では晴れの日が多く、日本海側では北日本を中心に曇りや雨または雪の日が多かった。東・西日本と南西諸島は低温だった。東北から近畿地方にかけての太平洋側では移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、仙台、横浜、大阪など24地点で多照の記録を更新した(表1)。低気圧がサハリン付近で発達することが多く、北海道地方では高温、寡照となった。

3. 台 風

図9は日本に影響を及ぼした台風の経路図である。台風の接近は、夏は南西諸島へ2個(第3号、第7号)本土へ1個(第3号)であった。秋は、南西諸島へ1個(第14号)、小笠原諸島へ2個(第12号、第13号)、本土へ2個(第12号、第14号)であった。そのうち第14号は鹿児島県に上陸した。年間発生した台風は23個(平年27.8個)で、1951年以降では8番目に少ない発生数となった。日本への接近数は5個(平年11.0個)で、これは1973年の4個に次ぐ、第2位の少ない接近数であった。上陸数は1個であった。

4. 生物季節観測

冬・春：ウメ、ツバキ、タンポポ、サクラ(ソメイヨシノ)、及びヤマツツジの開花はおおむね平年並であった。

夏：梅雨期の低温の影響で、アジサイ、サルスベリの開花は平年より遅かった。

秋・初冬：8月の高温の影響で、ススキの開花は遅く、

図7 1995年夏期間(6月～8月)の平均気温、降水量、日照時間の平年差(比)図

表2 1995年の梅雨の状況

	梅 雨 入 り		梅 雨 明 け		梅雨の時期の降水量(*) (括弧内は平年比(%))
	1995年	平 年	1995年	平 年	
沖 縄	5月上旬前半	5月中旬前半	7月上旬前半	6月下旬前半	那 覇 476.0 (94)
奄美地方	5月中旬前半	5月中旬前半	7月上旬前半	6月下旬後半	名 瀬 514.5 (71)
九州南部	5月下旬前半	6月上旬前半	7月上旬後半	7月中旬前半	鹿児島 1027.0 (146)
九州北部	6月上旬後半	6月上旬後半	7月上旬後半	7月中旬後半	福 岡 611.5 (119)
四 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月上旬後半	7月中旬後半	高 松 416.0 (141)
中 国	6月上旬後半	6月上旬後半	7月下旬前半	7月中旬後半	広 島 569.5 (-)
					呉 511.0 (110)
近 畿	6月上旬前半	6月上旬後半	7月下旬前半	7月中旬後半	大 阪 559.5 (154)
東 海	6月上旬前半	6月上旬後半	7月下旬前半	7月中旬後半	名古屋 468.0 (109)
関東甲信	6月上旬前半	6月上旬後半	7月下旬前半	7月中旬後半	東 京 356.5 (115)
北 陸	6月上旬前半	6月中旬前半	7月下旬前半	7月下旬前半	新 潟 410.0 (137)
東北南部	6月上旬前半	6月中旬前半	7月下旬前半	7月下旬前半	仙 台 263.0 (93)
東北北部	6月中旬前半	6月中旬前半	7月下旬前半	7月下旬後半	青 森 109.0 (59)

(*) 梅雨の時期の降水量とは、那覇と名瀬では5月から6月まで、その他の地点では6月から7月までの2か月間の合計降水量である。

図8 1995年秋期間(9月～11月)の平均気温, 降水量, 日照時間の平年差(比)図

図9 1995年日本に接近・影響した台風

○の中の数字は台風の番号。実線は台風の経路, その上の黒丸点と白丸点はそれぞれ台風の09時と21時の位置を表し, 付記された英数字は月, 日, 台風の中心示度(hPa)を表す。

表 3 1995 年の農業気象災害(農業被害 10 億円以上)

月 日	気 象 災 害 名	被 害 地 域	山崖崩 ヶ所	堤防決壊 ヶ所	耕地流失 ・埋没 ha	耕地冠水 ha	農業被害 万円
1/10～20	積雪 着雪 強風 凍結 雪圧	中国 近畿～東北					117,699
6/30～7/7	浸水 山崖崩れ 洪水 強雨 強風 土石流	九州～中部			99	1139	2,369,610
7/21～23	強風 山崖崩れ	沖縄 九州	2				112,976
8/ 1～7	浸水 強雨 山崖崩れ 洪水	中部 東北	116	1	54	7081	669,007
8/10～11	浸水 洪水 山崖崩れ 強雨 土石流	中部 東北	429	2	46	518	110,463
8/20～23	山崖崩れ ひょう 浸水 洪水 強雨 強風	九州 中国 中部 ～東北 北海道	23	28		275	296,685
9/16～17	強風 山崖崩れ 浸水 洪水 強雨	九州～東北	115	82			247,836
9/20～25	強風 洪水 強雨 浸水 山崖崩れ	沖縄 九州～近畿 北海道	22	1			442,224
11/7～10	強風 浸水 塩風 着雪 浸水 積雪	九州～中部 東北 北海道		1	20		288,875
5/11～7/10	日照不足	東北 北陸					9,080,000
7/25～8/31	少雨 高温	和歌山					126,000

東・西日本を中心に 17 地点で最も遅い記録となった。
また、10 月の高温の影響で、イチョウの黄葉、カエデ
の紅葉も平年より遅かった。

5. 農業気象災害

表 3 に 10 億円以上の農業被害のあった気象災害の概

要を示す。

なお水稲は、東北から北陸にかけて低温・日照不足等
のため、作柄は不良～平年並みであったが、その他の地
域では、梅雨明け以後天候に恵まれたことに加えて台風
や病気・害虫による被害も少なく、作柄はやや良～良で
あった。